

昭和三十一年度一般会計予算

歳入の部	歳入の部	歳入の部	歳入の部		備考
			款	目	
歳入総額	繰越金	繰越金	前年度	本年	三〇年度より繰越す (別表参照)
	繰越金	繰越金	六、一九六	三、六一	
雑収入	雑収入	雑収入	三、七〇〇	二、六〇〇	三〇年度分の未収金 銀行利子その他
	雑収入	雑収入	三、七〇〇	二、六〇〇	
雑収入	雑収入	雑収入	三、七〇〇	二、六〇〇	三〇年度分の未収金 銀行利子その他
	雑収入	雑収入	三、七〇〇	二、六〇〇	
雑収入	雑収入	雑収入	三、七〇〇	二、六〇〇	三〇年度分の未収金 銀行利子その他
	雑収入	雑収入	三、七〇〇	二、六〇〇	

歳出の部	歳出の部	歳出の部	歳出の部		備考
			款	目	
歳出総額	歳出総額	歳出総額	前年度	本年	アルバイト賃銀 三〇〇×三五日
	歳出総額	歳出総額	六、〇〇〇	五、〇〇〇	
給料	給料	給料	六、〇〇〇	五、〇〇〇	事務局関係者旅費
	給料	給料	六、〇〇〇	五、〇〇〇	
旅費	旅費	旅費	六、〇〇〇	五、〇〇〇	幻燈機その他 写真用品その他 切手、ハガキ
	旅費	旅費	六、〇〇〇	五、〇〇〇	
事務費	事務費	事務費	六、〇〇〇	五、〇〇〇	大会観催費
	事務費	事務費	六、〇〇〇	五、〇〇〇	
歳入	歳入	歳入	六、〇〇〇	五、〇〇〇	三〇年度より繰越す (別表参照)
	歳入	歳入	六、〇〇〇	五、〇〇〇	
歳入	歳入	歳入	六、〇〇〇	五、〇〇〇	三〇年度分の未収金 銀行利子その他
	歳入	歳入	六、〇〇〇	五、〇〇〇	
歳入	歳入	歳入	六、〇〇〇	五、〇〇〇	三〇年度分の未収金 銀行利子その他
	歳入	歳入	六、〇〇〇	五、〇〇〇	

昭和三十一年度分担金一覧表

郡市公連名	人口	三〇年度分担金	三一年度分担金	増減(△×)
北蒲原郡 新発田市	二、四二六	二、五七〇	三、〇〇〇	×一、四三〇
中蒲原市 新津市、五泉市	二、三〇三	二、四〇〇	二、三〇〇	×一、一〇〇
西蒲原市	一、五八〇	一、七〇〇	一、五〇〇	×二〇〇
南蒲原郡、見附市	三、〇五一	三、一〇〇	三、〇〇〇	×一〇〇
三条市	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	〇
加茂市	六、八七〇	六、八〇〇	六、八〇〇	〇
東蒲原郡	三、九七〇	三、九〇〇	三、九〇〇	〇
三島郡、古志郡	六、九七〇	六、九〇〇	六、九〇〇	〇
新尾市	三、九七〇	三、九〇〇	三、九〇〇	〇
北魚沼郡	六、九七〇	六、九〇〇	六、九〇〇	〇
小千谷市	五、一七五	五、一〇〇	五、一〇〇	〇
南魚沼郡	八、一〇〇	八、一〇〇	八、一〇〇	〇
中野市	三、七三〇	三、七〇〇	三、七〇〇	〇
刈羽郡、柏崎市	一、三六〇	一、三〇〇	一、三〇〇	〇
東頸城郡	五、一七五	五、一〇〇	五、一〇〇	〇
中頸城郡、高田市、直江津市	二、五三〇	二、五〇〇	二、五〇〇	〇
新井市	八、一〇〇	八、一〇〇	八、一〇〇	〇
西頸城郡、糸魚川市	一、〇七五	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
岩船郡、村上市	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	〇
佐渡郡	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	〇
両津市	二、三六〇	二、三〇〇	二、三〇〇	〇
新潟市	二、三六〇	二、三〇〇	二、三〇〇	〇
長岡市	二、三六〇	二、三〇〇	二、三〇〇	〇
計(三カ所)	三、三三〇	三、三〇〇	三、三〇〇	〇

上越三市一郡 公民館連絡協議会設立

上越三市一郡公民館連絡協議会 相互の連絡を深め公民館の運営を
設立総会は十月五日市役所に關係 研究しあうというもので、役員に
者約四十名が集まりて開かれた。つき日の議決を決定した。

- 会長 池田嘉一(高田中央)
副会長 山崎善治(直江津)
// 内山義文(新井)
// 渡辺義文(大滝)
理事 飛田郎外十一名

昭和三十年年度一般会計決算報告書

本会事務局は新潟大火(三〇・一〇・一)に類焼し、帳簿類一切を焼失したので、上半期の決算が不能となり、下半期分の決算となつたことを先づお断り致しておきます。

歳入の部

款項	目	決算		備考
		款項	目	
1 繰越金	1 繰越金	七、五五〇	七、五五〇	※内訳は別表の通り、なお年度内未納額は四八、四六〇円で従つて卅一年度歳入に計上した。
2 負担金	1 負担金	※六、五八〇	一六、九三〇	
3 雑収入	1 雑収入	三	三	
合計		一七、一三三	一七、一三三	

歳出の部

款項	目	決算		備考
		款項	目	
1 給料費	1 給料	五、一〇〇	五、一〇〇	アルバイト給料
2 旅費	1 旅費	三、三三三	三、三三三	キヤビネット、図書印鑑等 事務用品、写真用品 ハガキ、切手
3 事務費	5 4 3 2 1 雑印刷 通信費 消耗品 信費	一〇、八〇〇	二、七〇〇 三、七〇〇 二、一〇〇 一、三〇〇 一、一〇〇	公民館図説代(岩崎書店扱)
1 業費	1 県下大会費	〇	〇	
2 会議費	2 1 評議員会費 幹事会費	九、七〇七	五、七〇七 四、〇〇〇	
3 研究費	2 1 調査研究費 研究会費	一六、二五五	一六、二五五	赤彦に於ける講習会 (県費以外のもの)

昭和三十年度負担金納入状況

(但 下半期分)

郡市名	分担金	災害復興 負担金	(後期)入金	残
北蒲原郡	一、七〇〇	五、一〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇
新発田郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
中蒲原郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
東蒲原郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
西蒲原郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
南蒲原郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
三島郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
古志郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
北魚沼郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
南魚沼郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
中魚沼郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
刈羽郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
東頸城郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
中頸城郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
西頸城郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
岩手郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
佐賀郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
新潟郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
高田郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
長岡郡	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
新潟津市	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
小千谷市	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
加茂市	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
十日町市	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
見附市	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
村上市	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
燕尾川市	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
真田市	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
魚尾川市	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
糸魚川市	一、七〇〇	三、三〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇

4	連絡費	3 2 1	全国大会費 中央会議費 その他連絡費	六、四八〇	八、〇〇〇	五、〇〇〇	自動車賃等 全公連会議費
5	振興費	3 2 1	県内振興費 会紙費 その他振興費	五、〇〇〇	五、〇〇〇	〇	特別会計に繰入れた金額
予備費	1	1	負担金	〇	〇	〇	社会教育団体協議会分損金
予備費	1	1	予備費	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	次年度へ繰越
合計	合計			二七、一七〇	二七、一七〇	二七、一七〇	

特別会計決算報告書

歳入の部	科目	決算額	備考
繰越金	六四、八五四円		
購読料	※ 二二七、一三五		
雑収入	一、一五七		
歳出合計	二八三、一四六		
備考	※ 月報代 一七、五五円 文化財図録 三、五〇〇円 公民館の経営費 三、七〇〇円 公民館図説 八、五〇〇円 本会計より 五〇、〇〇円 その他 四、五〇円		
歳出の部	科目	決算額	備考
印刷費	※ 二二四、八〇〇円		月報印刷費及び公民館図説その他の購入費
謝礼費	九、九五〇		参考図書及写真代等
取付材費	一四、九四八		通信運搬費を含む
予備費	二四九、六九八		
歳出合計	三三三、四四八		
計	二八三、一四六		次年度に繰越す

新井市	六、五〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、一〇〇
五泉市	六、五〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、一〇〇
両津市	六、五〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、一〇〇
三条市	六、五〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、一〇〇
合計	二六、〇〇〇	六、六〇〇	六、六〇〇	四、九〇〇
合計	二六、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇

註 △印はその後入金致しました。
(三・一・三・三一現在)

新潟県公民館連絡協議会会則

第一条 本会は新潟県公民館連絡協議会と称し、事務局を新潟市、新潟県教育庁社会教育課内におく。

第二条 本会は県内各都市公民館連絡協議会の連絡体として、公民館運動並びに運営の健全なる発展に資することを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達するため左の事業を行つ。

一 公民館運動に関する宣伝啓蒙

二 公民館運営に関する研究調査、其の他本会目的達成に必要な事業

第四条 本会に左の職員をおく

会長 一人
副会長 三人
幹事 若干名
評議員 若干名

任期は評議員を除き一年とする、但し再選を妨げない。

第五条 会長、副会長は評議員会に於て選出する。評議員は各都市公民館連絡協議会の会長とする。幹事は評議員会の承認を経て会長が委嘱するものとする。

第六条 会長は本会を代表し、評議員会を召集し、その議長となる。

第七條 評議員会は予算、決算等其の他重要事項を審議する。

第八條 本会の経費は各都市公民館連絡協議会の負担とする。

附則
一 この会則は昭和二十五年五月二日より施行す。

二 評議員は過半分の同意第五条第二項の規定にかかわらず従来の地位より選出する。

関東ブロック公連結成準備会
関東甲信越部のブロック公連は未結成であつたが、山梨外よりその結成が提案され、来る六月九日栃木県鬼怒川温泉においてその準備会がもたれることとなつた。

本会よりは石井幹事が出席するところとなつてゐる。

昭和二七、四、一四、五条改正
昭和二八、四、一〇、第一条改正
昭和三一、五、一六、第一条附則改正

超短波教育放送を活かせ

国際キリスト教大 西本三十二教授の意見

奥の教育放送の運営ならびにこれを効果的に学習に利用するにはどうせねばならないか、国際キリスト教大西本教授の出陣を待って協議会がもたれたが、以下はその要旨。

先ず第一には、このように奥で、なにかという意見も出てくるが、もつて教育放送については他方であり聴取者とのむすびつきは或る程度しか考えられていないが、奥の教育放送の場合は、単なるローカル味をもつていて、つまらぬ、聴取利用者と密接にむすびつくもので他の放送局では絶対にやることのできない方法をとり、進捗できるという大きな時間と利益をもつていこうとある。

部落公民館の活動

西頭 土田 宗次

青年団と婦人会が公民館に集つて、部落の生活の中にある不合理を改めて行きたいと話し合った。公民館はこれら部落の全体活動にしよう、時を逸せず助言した。青年団、婦人会の指導者層がいくつも話し合いを持った。二つの団体が団体としての会合も重ねた。部落の重立ちや、壮年層の人たちや、4 Aクラブや、農研クラブや農協団体に呼びかけて、「新生活運動推進協議会」の誕生をみた。公民館の中に協議会の事務局も設けた。

そして、主な利用者である青年学級や婦人学級の人々が、自分たちの放送であるという意識をもつて番組の編成や、評価について協力していかねばならない。現在も、数件の申しこみに基づいてはじめられた所の、利用者の希望するプログラムを申しこみ、それを放送する。或は、他の学級やグループを録音構成で知らせる事等も大いに考えられてよい。また、録音教材の普及に伴つて教育放送は影がうすくなるのでは

批判や討論ができるという点が重要視され、同じ放送を、A・B・O・Dと多くの学級でも同時に受けているという、はなれている学級同士が仲間の意識をもたせながら学習できるという他の教材では得られない面がこれでは要諦である点などから考えて、このような懸念は全くないものである。現在考えられている実験聴取グループにも意欲的に参加しようとする団体もあり、受信機についても、従来のものよりすばやく低廉のものが五月中に試作完成する予定で、それに伴う自作講習も考えられているので、受信機の普及も急進して盛んになることも考えられる。いずれにしても番組が着々と改善されると同時に受信機の普及もなるべく進めていかれるべきであり、指導層も学級生も自分等の手で育てあげるといふ考え方で利用したいものである。(高橋)

青年団と婦人会が公民館に集つて、部落の生活の中にある不合理を改めて行きたいと話し合った。公民館はこれら部落の全体活動にしよう、時を逸せず助言した。青年団、婦人会の指導者層がいくつも話し合いを持った。二つの団体が団体としての会合も重ねた。部落の重立ちや、壮年層の人たちや、4 Aクラブや、農研クラブや農協団体に呼びかけて、「新生活運動推進協議会」の誕生をみた。公民館の中に協議会の事務局も設けた。こんな過程の中で広報の重要な要素をつた青年たちは早速騰字技術の講習会を催し、騰字印刷の面白味を知つたという。練習は日をおつて技術を高め広報機能をくんと広めることができた。三〇数名の



現場こぼれ話

北原 克二

第一話 婦人会の巻

或る婦人会の指導者講習会に行つた時の話である。婦人会の会合にどうしたら出席者が多くなるかという討論の時に一人の方が「私は婦人会の会合に出席するために平素からその準備をしておきます。それは宅の子供達が友達を家につれてきて遊んだ時などは、手製のお菓子などを出して気持よく接待してやり愉快地に楽しく遊ばせるようにしておきます。そしてその後婦人会の会合がある時には「今日は婦人会でお母さんの勉強の日です。あなた方はよくお留守番をしてお母さんの勉強が出来るようにして頂戴」と申しますと子供達は「お母さん安心して行っていらつしやい」と申して来られます。」

第二話 青年学級の巻
実績の上つてくる青年学級の会場になつてくる或る中学の校長さんが話されるには「私は学級生を生徒玄関から入れませぬ。唯々職員玄関から入る。」

第三話 P・T・Aの巻
或るP・T・Aに行った時、T側幹部一三名も同様に「三」名それぞれ。かく一杯やり、みんなほのり酔が廻つた頃P側の一人がTに向つて「先生、私共は受妻先生方に注文や忠告がないわけではないですが、向上させるとか子供達の幸福にねんか思ひ切つては仲々話されませぬ。そればかりの子供の百教をへらされるかと思ひますね。」

第四話 フォークダンスの巻
フォークダンスと民謡の講習会を或る村で開いた時のことである。男女の青年達が裏面に熱心に手をとりあつてフォークダンスをしてゐる。奥から指導

「あなた方はどうも社会人だ。唯々職員玄関から入る。」

「あなた方はどうも社会人だ。唯々職員玄関から入る。」

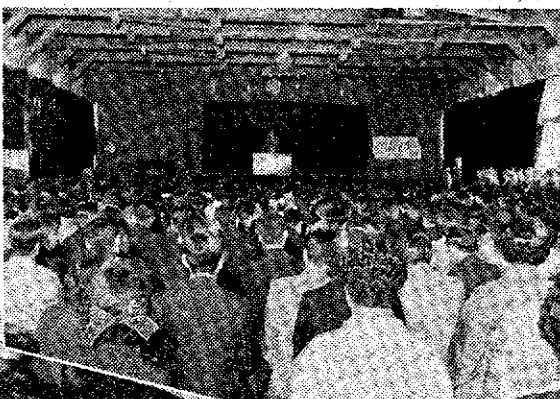
成人式を祝つて

合同演劇祭

十日町市公民館

十日町市では、成人式は全市一を得て、十日町小学校で盛大に挙
 行に会して式を挙げるため出稼期に行された。
 當日は十時からの式典についで
 演劇期を三つて、毎年春行ふこと
 當日は十時からの式典についで
 演劇期を三つて、毎年春行ふこと

当日は十時からの式典についで
 演劇期を三つて、毎年春行ふこと
 當日は十時からの式典についで
 演劇期を三つて、毎年春行ふこと



録の朗読が行
 なされた。

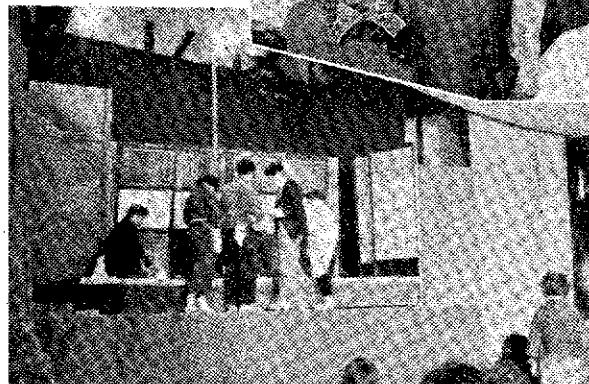
中食は婦人
 会、青年団寄
 贈のパンを推
 べながら、楽
 しレクリエ

文部省主催

社会教育研究会

文部省栃木県教委主催で社会教育研
 究協議会が六月七、八、九日鬼怒川温
 泉において開かれる。

本県からは石井研一、小杉説次郎
 (以上公民館)、石部市五郎 (PTA)
 野沢正一 (青年) 社教課からは藤田課
 長、増井、坂川両主事が出席する。



相川町では郷土博物館建設促進
 委員会(会長井井栄一氏)が中心
 となり、相
 川鉱山の資
 料、三菱本
 社よりの寄贈
 された各地
 鉱山の鉱石
 相川金山発
 見以来の資
 料、佐渡三
 郎の著作と
 しての発行
 所だった資
 料、相川を
 中心とする
 江戸時代の
 資料、佐渡
 先祖の遺墨
 など、在町の
 貴重な文獻

相川郷土博物館に次いで 佐渡博物館設立準備すすむ

相川町では郷土博物館建設促進
 委員会(会長井井栄一氏)が中心
 となり、相
 川鉱山の資
 料、三菱本
 社よりの寄贈
 された各地
 鉱山の鉱石
 相川金山発
 見以来の資
 料、佐渡三
 郎の著作と
 しての発行
 所だった資
 料、相川を
 中心とする
 江戸時代の
 資料、佐渡
 先祖の遺墨
 など、在町の
 貴重な文獻



四月十六日、高田市立
 図書館において、県内公
 共図書館長会議が開催さ
 れた。昭和三十一年度
 予算ならびに事業計画が
 発表され、ついで、県教
 委と県図書館協会協催に
 よる今年度事業の研究集
 会、セミナー、県下図書
 館大会などの計画案が討
 議された後、お堀の花見
 客にきわついている夕刻
 散会した。

案山子(会)コーラス二十日町遊
 声合唱団など、盛沢山などのたつ
 た。なお該当委員会に記念品とし
 て印章が贈られ、感謝ある成人式を
 終つたが夜は午後六時半から、成
 人式記念の盛大な合同演劇祭も開
 催された。その参加団体はあすな
 ろクラブ(人形劇)中郷とあまん
 じやく、十日町定常演劇部(劇舞
 踊)シヤンポの会、劇楽隊、劇
 団演劇人(劇つゆき)であった。
 写真(上)式場、(下)ばたもち
 算を計として、旧相川鉱山事務所
 を相川町郷土博物館に改造中であ
 り、近く開館の見込みである。
 なお佐和田町における佐渡博物
 館の建設はながい間の懸案であつ
 たが、いよいよ今秋中に工費約二
 千万円新築交通路建設して(貸与)
 下着上の見通しがついた。そのた
 り佐渡博物館設立委員会(会
 長須田勘左衛門氏)では、島内の
 各学術教育、文化団体、町村会を
 のほかから寄せられたこれまでの
 好感を感謝するとともに、さらに
 会高民の協力を得て、財団法人の
 基本として必要とおもわれる四百
 万円の資金造成運動を起し、郷土
 における近代的文化表現に努
 めている。

高田市で 図書館長会議開く

四月十六日、高田市立
 図書館において、県内公
 共図書館長会議が開催さ
 れた。昭和三十一年度
 予算ならびに事業計画が
 発表され、ついで、県教
 委と県図書館協会協催に
 よる今年度事業の研究集
 会、セミナー、県下図書
 館大会などの計画案が討
 議された後、お堀の花見
 客にきわついている夕刻
 散会した。

図書室

— 浜谷浩写真集 —

濱谷浩氏も知るカメラ界の
 『誰にもわかる肥料の知識』
 浜江 慶彦

続誰にもわかる
 肥料の知識

浜谷浩氏は人も知るカメラ界の
 ベテランである、大正四年東京
 生れとある。江戸子でありなが
 ら書国に青春の感情を燃焼し統
 けたとも書いている。
 二十年から八年間高田に居
 いて主として記述されている。
 移して會と取組んだ、特にこの
 書的大部分を占める養取合には
 昭和十五年から十年間も馬鹿
 たいに連れ続けたと云う情熱が
 ひそんでいる。どの画
 面にもさうした愛情が
 にじみ出ていると思
 う。
 特長民俗学的な観点
 から最も重要な記録写真
 である。失われんとす
 る無形の民俗資料をこ
 のような優れた技術で
 記録し保存するといふ
 ことは大切なことであらう。
 著者 濱谷浩氏、高田の民俗学者市川
 信次氏の指導とは此の書に一層
 の光彩を加えている。
 内容は最後と養取合の二部
 に分れている。
 25×36cm の特殊版G号
 真一六葉 解説二一三Pの美麗
 本。
 昭和三二、三 毎日新聞社
 刊一五〇〇円 三六〇P 一五〇〇円
 岩崎書店発行



「地元」の神様

社教課 高橋 英 夫

けんらんちをかき誇った奥内各地の桜花ももも葉桜に変わり初夏の香きしを思ふのがかまざるようになった。

ハハラハとせられる。これで事故を起しては天鳥様のよごはれまいに……遊覧バスという利器もあつたのだ。

お花見はつハコロールデニワイクを迎えたが奥内ではこれらによる事故もさしてなく、最近のぶつそうな地獄の世相にほつとせられた。

二年程まえに私は関西から四国へ行つてみた。妻にはつらつとた美人の多いにはあらう(特に土佐には)

まあ今年も元月におきが繁生したところらで、厄病神には遠慮してもらいたいものである。

新瀨にいたる時には全国に誇る新瀨美人がさつぱり美人にみえないのは我ながら不思議に思える。

所で今年も、公民館、婦人青年クラブで、先進地の視察やレクリエーションにおひかけの事と思つが、乗物によく注意されては、まあレクリエーションなどは、もつとも原始的な方法として歩くことに限るであらう。

地元(の神様)より他地の神様が尊く見えるのと同じだ。自分の村にも市にもつばな等機縁験者が多数おられるのに、何か会合をもつと中央や他の部署から起はなくては気がすまない。

新瀨市では、公民館の街頭から、皇居の奉仕に参加する所も少くないようだが、自動車洪水のまよな東京の街で、老若の方々がマコモコしておられるの良るのは

はお布施のまよな包を出し「うちせせ」と思ふ。そして、講師がお揃えりのとき

の村には若者が少なくて真に悲願のすが」といわれることなげう。地元の神様を利用すればこんな事はいなくてはならないに……。そこで私も考えなわして女房は最後の人にきめたという次第

新年名刺交換会、成人式、敬老会、運動会、春秋の旅行、講習会と年中多形な行事を計画している所があると思つと、計画された公民館の行事が、青年や婦人のみを対象としたものばかりでうめられていて、所が非常の多い。忘れられた子等じやなくて「忘れられた大人」があるであらう。これらの忘れられた人々は、青年たちととらえて、アブというおもむきで……

この狭まじり下界の生活はほとんど動物をきても防げない。むしろ裸になつて二時的解放感を味わい、酔くなる。そこで男は酒に、女は風流に。

大戦争のあとには平和論が盛になるように、宿酔の翌日は「酒は左派(ひだり)であつて、保酒党の方々が相当あられると願う。

そのいふは、タニタツドマン物語と映画が最近切られる。この映画そのものは、単なるヌロドラマにすぎないが、タツドマンがジャズ音楽に志してから、カーネギーホールで演奏会をもつまでの二〇年間の彼の設計に満ちた音楽生活を描いたものである。

今でこそ、ジャズは、大衆化し

農村でも都会でも口ずかされていら十年、この歴史の浅い公民館の集會も連年の参考に、三〇年の歴史を洗練された内容をもつ、ラジカををつかつては、なせならば、それは、きく人々放送がはじられてから三〇年、に共通の話題をもたせ、全国のいろいろな事が、いながらにしてわかんという、最も低廉な費用と簡単な手数で、広い視野と新鮮な智識がえられ、その集會をもつた意義をふかからしめるからである。

漫筆酔歩

南魚田 中 邦 雄

その企圖に他人を同意させ協力さるらない。若し美学家がそうやれば之は並業家だつう。こうゆうのが虚々実々？

酒を飲みながら考えた。広く人間を愛しようと思つたら、或程度には丸呑みにしなければならぬ。喉で居たら糞だけになつてしま

企圖することは誰でも出来るがその企圖に他人を同意させ協力さるることがむづかしい。集會、誰かが歌をうたうと橋が拍手を合せる。自體の動きの中で文化的なものに、手拍子を合せる気分を醸し出すことが公民館の仕事かも知れぬ。(石打村公民館長)

文部省企画の録音教材の紹介
◎青年と生活
解説 坂西 志保
青年に於ては、社会生活をよくしていくに交際が極めて大切であるが、男女の交際、職場の人やその他の友達の交際の仕方をもつて紹介し、交際の心得、身だしなみなどを話し合ふ。

◎青年と結婚
解説 亀井勝一郎
未婚の男女にとつて結婚は第二の読書ののしりである。この二書があるの、次身に紹介することにしたと思ひます。

紙面が許さないのので、今回の紹介は止めるが「青少年と読書」とは決して固苦しいものでもむすかしいものでもない。身近かな問題から、楽しい雰囲気の中で始めることである。

◆三十一年度始めの幹事会 評議員会と統いてこんなに短ふなりました。がそれ故に、決算報告も、

